

# 高齢社会における交通のあり方に関する一考察

## One consideration on the ideal method of the traffic in aging society

岡 本 久  
Hisashi Okamoto

### 【目 次】

1. はじめに
2. 高齢人口の推移
3. 高齢者の経済・社会的側面と交通行動の実態
4. 交通事業者の高齢者対策
5. 高齢社会における交通のあり方
6. むすび

### 1. はじめに

わが国における人々の高齢化は急速に進行しており、このことによって様々な影響が生じることが予想されている。国連の世界保健機関（WHO）の定義では、65歳以上の人のことを高齢者としており、戦後生まれの世代で人口の最も多い「団塊の世代」（1947年～1949年生まれ）と言われている人たちは、まもなく高齢者の仲間入りする状況にある。わが国では、核家族化が進み、高齢者の単身または夫婦のみの世帯が増加の一途を辿っているのも現実である。

高齢者には引きこもりで全く外出しない（できない）人々、歩行困難や視力的・聴力的に不自由等々で、移動に際しては介助の必要な人々が存在する一方、毎日の生活を元気で活動的に送っている人々（以下、「アクティブシニア」と称す）も存在する。つまり、「高齢者」という一括りで論じられない多様な人々で高齢者は構成されている。高齢化社会へと着実に突入している状況下、交通業界では多様な高齢者に対応したハード・ソフト面における種々の課題が指摘されている。

本論は、高齢者を取り巻く環境、高齢者の交通行動の実態を踏まえ、交通事業者による高齢者対策事例（国内外）をまとめた上で、今後の交通のあり方について若干の提言を含めて論じたものである。

### 2. 高齢人口の推移

わが国の人口構造は少子高齢化が急速に進行しており、総務省統計局データ（国勢調査）によると、2005年現在の65歳以上人口は2682万人で、総人口の21%を占め、5人に1人が高齢者であることが示されている。総人口に占める高齢者人口の割合の推移を（図表1及び図表2）でみると、1955年（S30年）以